

第3回日米大学図書館会議開催さる

日米両国における大学図書館が共通に直面している諸問題を、はば広い観点から研究討議して協力を深めるため、第1回の日米大学図書館会議（Japan-U. S. Conference on Libraries and Information Science in Higher Education）が東京で開催されたのは、1969年であった。第2回は会場をアメリカに移し、1972年ウイコンシン州ラシーンで開かれ、第3回が1975年10月28日から31日まで国立京都国際会館で開催された。

地もとの関係もあって、本館が同会議開催のための実行委員長として、市内及び近畿地区所在の各大学図書館の協力のもとに、会議の準備にあたった。

第3回会議のプログラムは次の通りである。

第1日（10月28日）

- 10.30-12.00 開会式（経過報告、祝辞）
- 13.30-14.30 基調報告
- 14.30-16.10 図書館の全国的ネットワーク
- 16.10-17.00 主題別の全国的ネットワーク
- 17.30-19.30 レセプション

第2日（10月29日）

- 10.00-12.00 図書館協力活動のための標準化
- 13.30-17.00 部会討議
 - 第1部会 図書館の全国的ネットワーク
 - 第2部会 図書館協力活動のための標準化

第3日（10月30日）

- 10.00-12.00 研究者の情報要求と図書館資料の発展
- 13.30-14.00 同上つづき
- 14.00-17.00 図書館の施設、建築と職員

第4日（10月31日）

- 9.30-12.00 部会討議
 - 第3部会 研究者の情報要求と図書館資料の発展
 - 第4部会 図書館の施設・建築と職員
- 13.30-15.00 全体会議（閉会式）

なお、参加者は米国側25名、日本側は286名であった。

経済学部「閲覧室だより」について

—— 定例閲覧室会議から誕生 ——

経済学部閲覧掛では第2・第4の月曜日、まだ利用者の少ない朝一番の僅かな時間を掛内での話し合いの場にあて、諸会議の報告や掛内でかかえている仕事上の色々な問題、また今後の仕事の進め方等について話し合うことにしているが、新館に移転して3年、約30万冊の蔵書をかかえ、古い歴史と慣行を持った我々の図書室では、ある面については改善し、或は整理していかなければならない蓄積された仕事が山積しており、現在の閲

覧掛ではこの話し合いの場は欠くことのできないものになっている。

昨年秋のある日の話し合いの時、掛員不足の現状での経済学部閲覧掛のあり方や役割について話が進んだ。意見百出、その中から皆が出した結論、それは色々な悪条件の中でも何とか利用者にとって使いやすい閲覧室でありたい。それにはどうすればよいか、先ず利用者とのコミュニケーションを良くすることも一つの方法であろう。しかし云

うは易いが、これをどのような方法で実行していくかが問題となった。やはり第一に利用者が我々経済学部閲覧掛をどのように見ており、何を望んでいるかを知る必要がある。一方我々には我々なりに意見百出して、より良い閲覧室づくりに努力している事実も利用者に知ってほしい。では利用者と閲覧掛とのパイプ役をつとめてくれる新聞のようなものを出してはどうか、新聞の発行については全員賛成、さて実行にうつすとなると、ここでまた色々な問題が出てくる。

1. 発行する以上、内容が充実しており、しかも面白くそして利用者にとって少しでも役にたつこと。
2. 一度発行すれば100号までも200号までも続けなければならない。
3. 予算の少ない経済学部にとっては経費が最少限度で発行できるような方法でありたい。
4. 閲覧掛の本来の仕事に差し支えないこと。

以上のような様々な要素についても真剣に検討の上、全員で協力して実行することに踏み切った。このようにして誕生したのが「閲覧室だより」である。

先ず昨年10月9日準備号を発行し、250部刷ったが、4、5日で全部無くなってしまった。図書委員会にも発行の件を提出して了解された。また図書主任から学部の教官会議に報告されここでも了承を受けた。それに事務長から励ましの言葉を頂いたことも、我々のファイトをますます燃

やしてくれた。しかし何よりも掛員一同が感謝しているのは、原稿を利用者に依頼しても、経済学部は勿論、他学部の方々でも皆快く引受けて、率直な意見や感想を書いて下さったり、おりにふれて聞かせて下さったりすることだ。

このような恵まれた形でスタートした「閲覧室だより」も、第1号を11月に発行以後回を重ねて5号になった。色々な学部からボツボツ反響が聞えてくるようにもなってきた。これも我々には良い勉強になっている。ついでながらこの紙面をおかりして、今後共お気付きの点やご意見をどんどんお聞かせ下さいとお願いしておきたい。

さて、今後「閲覧室だより」はどのような方向に進んでゆくのだろうか。「新学期の4月には利用案内をのせては……」と図書主任からアドバイスも頂いている。また経済学部大学院経済学研究科発行の「授業計画及び講義概要」に出ている各教官が演習の教材に利用される教科書、指定書、参考書の所在調査をおこない、のせるのも利用者には便利であろう。このように時期に応じた記事も出すつもりである。利用者の声もなるべく毎号のせてゆきたい。閲覧掛で書庫等の整理計画をたてた時には、利用者に知らせる役目もしてもらおう。閲覧室会議では「閲覧室だより」の将来構想に色々と夢の花が咲いている。ともかく無理をせず、しかし号を重ねるごとに、ますます内容の充実したものにしていきたいと掛員一同腕をならせている。(経済学学部閲覧掛 内藤昭子)

バイルシュタインの有機化学ハンドブックについて

工学部教授 安藤 貞一

御紹介したい。

バイルシュタインの有機化学ハンドブックが本年4月から付属図書館に備えられることになったのを機会に、このハンドブックについての概略と、これが付属図書館に備えられるに至った経緯とを

「バイルシュタイン」と通称されるこのハンドブックは、いやしくも有機化学の分野に関わる研究者である限り、その名を知らぬものはないであ